

ルカ伝の祈り (1)

「祈る民」

(高橋 みづほ 牧師)

【聖書のみことば】 ルカの福音書 1章 5-13節

- 5 ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。
- 6 ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行っていた。
- 7 エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。
- 8 さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていたが、
- 9 祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。
- 10 彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。
- 11 ところが、主の使いが彼に現れて、香壇の右に立った。
- 12 これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖に襲われたが、
- 13 御使いは彼に言った。「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。